

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 05-037664

(43)Date of publication of application : 12.02.1993

(51)Int.Cl.

H04M 11/00

G06F 3/02

H04N 1/00

(21)Application number : 03-186775

(71)Applicant : CANON INC

(22)Date of filing : 26.07.1991

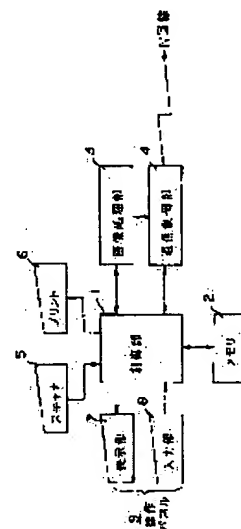
(72)Inventor : FUKADA HIROSHI

(54) PICTURE COMMUNICATION EQUIPMENT

(57)Abstract:

PURPOSE: To prevent mis-dialing or waste of recording paper by calculating an input digit number when a numeral is inputted without operation of a prescribed key representing dialing and selecting the operation in response to the result of calculation.

CONSTITUTION: A ten-key among entry keys of an entry section 8 is used for entering a telephone number and a copy sheet number, and a start key is used to instruct the start of call processing and copy processing. When the ten-key is used for entry after the entry of the dial key, the number is processed as a telephone number of an opposite station, and when the ten-key is operated without depression of the dial key, the entered value is processed as a copy sheet number in the case of copying in which an original picture read by a scanner 5 is printed out by a printer 6. When the operation of the ten-key is started without depression of the dial key, the digit number is counted and when it is a prescribed digit number or over, the numeral entered so far is canceled and warning is executed by means of sound, light, visual display or the like.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]	19.06.1997
[Date of sending the examiner's decision of rejection]	22.08.2000
[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]	
[Date of final disposal for application]	
[Patent number]	3141035
[Date of registration]	15.12.2000
[Number of appeal against examiner's decision of rejection]	2000-14976
[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]	21.09.2000
[Date of extinction of right]	

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 05-037664

(43)Date of publication of application : 12.02.1993

(51)Int.Cl.

H04M 11/00
G06F 3/02
H04N 1/00

(21)Application number : 03-186775

(71)Applicant : CANON INC

(22)Date of filing : 26.07.1991

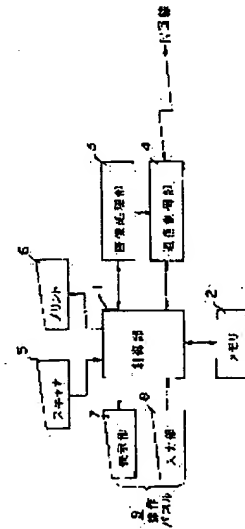
(72)Inventor : FUKADA HIROSHI

(54) PICTURE COMMUNICATION EQUIPMENT

(57)Abstract:

PURPOSE: To prevent mis-dialing or waste of recording paper by calculating an input digit number when a numeral is inputted without operation of a prescribed key representing dialing and selecting the operation in response to the result of calculation.

CONSTITUTION: A ten-key among entry keys of an entry section 8 is used for entering a telephone number and a copy sheet number, and a start key is used to instruct the start of call processing and copy processing. When the ten-key is used for entry after the entry of the dial key, the number is processed as a telephone number of an opposite station, and when the ten-key is operated without depression of the dial key, the entered value is processed as a copy sheet number in the case of copying in which an original picture read by a scanner 5 is printed out by a printer 6. When the operation of the ten-key is started without depression of the dial key, the digit number is counted and when it is a prescribed digit number or over, the numeral entered so far is canceled and warning is executed by means of sound, light, visual display or the like.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 19.06.1997

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 22.08.2000

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3141035

[Date of registration] 15.12.2000

[Number of appeal against examiner's decision of rejection] 2000-14976

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection] 21.09.2000

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-37664

(43)公開日 平成5年(1993)2月12日

(51)Int.Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

H 0 4 M 11/00

3 0 2

7117-5K

G 0 6 F 3/02

3 6 0 E 7313-5B

H 0 4 N 1/00

1 0 6 Z 4226-5C

審査請求 未請求 請求項の数 4 (全 7 頁)

(21)出願番号

特願平3-186775

(22)出願日

平成3年(1991)7月26日

(71)出願人 000001007

キャノン株式会社

東京都大田区下丸子3丁目30番2号

(72)発明者 深田 宏

東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キャ
ノン株式会社内

(74)代理人 弁理士 加藤 卓

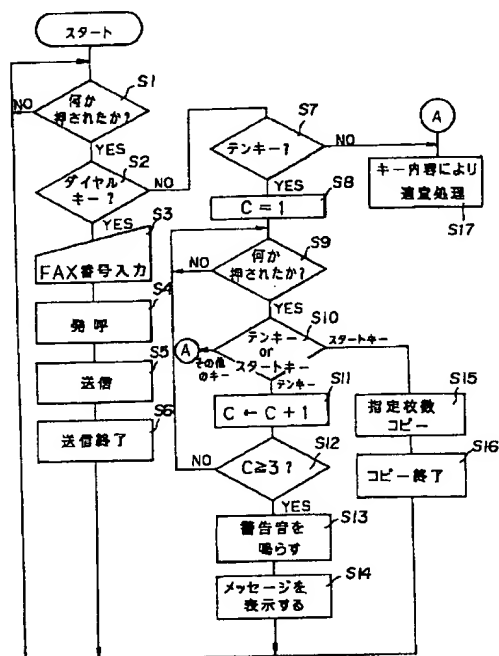
(54)【発明の名称】 画像通信装置

(57)【要約】

【目的】 ユーザの意図しない動作が行なわれ、誤発呼や、記録紙の無駄な消費などを未然に防止できる画像通信装置を提供する。

【構成】 ダイヤルキーが押下されずに電話番号および原稿コピー枚数の双方の入力に用いられるテンキーから入力が行なわれると(ステップS2～S7)、テンキーの入力桁数をカウントし(ステップS11)、その桁数が3以上の場合、警告音出力(ステップS13)、およびメッセージ表示(ステップS14)を行ない、それまでの操作内容をキャンセルし、初期状態に戻る。

(図3)



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ダイヤリング操作を示す所定キーを操作後、数値入力手段から相手局の選択番号に相当する数値を入力し、その相手局を発呼するとともに、前記数値入力手段が、相手局発呼以外の所定処理にも使用される画像通信装置において、

ダイヤリング操作を示す所定キーの操作なしに前記数値入力手段から数値入力が行なわれた場合、数値入力手段からの入力桁数を計数し、その計数結果に応じて動作を選択する制御手段を設けたことを特徴とする画像通信装置。

【請求項2】 ダイヤリング操作を示す所定キーの操作なしに前記数値入力手段から数値入力が行なわれた場合、数値入力手段からの入力桁数を計数し、その計数値が所定値以上の場合警告を発生し、それまでに行なわれた操作内容をキャンセルすることを特徴とする請求項1に記載の画像通信装置。

【請求項3】 ダイヤリング操作を示す所定キーの操作なしに前記数値入力手段から数値入力が行なわれた場合、数値入力手段からの入力桁数を計数し、その計数値が所定値以上の場合、それまでに行なわれた操作内容をダイヤリング操作として扱うことを特徴とする請求項1に記載の画像通信装置。

【請求項4】 前記所定処理が原稿のコピー動作であり、数値入力手段からの入力値を原稿のコピー枚数として扱うことを特徴とする請求項1から請求項3までのいずれか1項に記載の画像通信装置。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【産業上の利用分野】 本発明は画像通信装置、特にダイヤリング操作を示す所定キーを操作後、数値入力手段から相手局の選択番号に相当する数値を入力し、その相手局を発呼するとともに、前記数値入力手段が、相手局発呼以外の所定処理にも使用される画像通信装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来よりファクシミリ装置において、発呼時に原稿をセットしてから相手局の電話番号を入力する前に「ダイヤル」などと表示されたボタンを操作し、その後テンキーによって相手局の番号を入力するものがある。この方式では、「ダイヤル」ボタンの押下によってその後入力される番号が電話番号であることが示される。この方式の装置では、ダイヤルボタンを押さずにテンキーで数字を入力してスタートキーを押下すると、テンキーで指定された枚数分だけ原稿のコピーを行うようになっている。

【0003】 図5は上記のような従来装置の制御を示している。図5のステップS18ではキーあるいはボタンの入力が検出され、これらの操作があると、ステップS19でダイヤルキーの押下があったかどうか判定さ

れ、ダイヤルキーが押下されていればステップS20でテンキーから入力される数字を発呼に使用する番号として入力し、その後ステップS21～S23で発呼処理を行う（ここでは画像送信）、ダイヤルキーの押下でなければステップS24でテンキー押下をコピー枚数の入力として扱い、ステップS25、S26でその枚数分の原稿コピー処理を行う。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 上記のような構成では、テンキー操作によって原稿コピーの枚数を指定できるという利点がある反面、発呼を行いたいにもかかわらず、ダイヤルボタンの操作を忘れると（ダイヤルボタンがない装置もあるため、このような誤操作が起こりやすい）、ユーザの意図に反してコピー動作が始まってしまう、用紙を無駄にするという問題があった。

【0005】 また、ダイヤルキーを使用せずにコピー枚数の入力開始されると、その桁数を監視し、例えば3桁以上の入力を行えないようにした装置もある。このような装置で3桁以上の入力を行うと、最後の2桁のみをコピー枚数として扱うような処理が知られている。しかし、この場合にもユーザがダイヤルキーを押さずにテンキー操作によって電話番号を入力している場合には、意図しない発呼動作が行われてしまう問題がある。

【0006】 本発明の課題は、以上の問題を解決し、ユーザの意図しない動作が行なわれ、誤発呼や、記録紙の無駄な消費などを未然に防止できる画像通信装置を提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】 以上の課題を解決するために、本発明においては、ダイヤリング操作を示す所定キーを操作後、数値入力手段から相手局の選択番号に相当する数値を入力し、その相手局を発呼するとともに、前記数値入力手段が、相手局発呼以外の所定処理にも使用される画像通信装置において、ダイヤリング操作を示す所定キーの操作なしに前記数値入力手段から数値入力が行なわれた場合、数値入力手段からの入力桁数を計数し、その計数結果に応じて動作を選択する制御手段を設けた構成を採用した。

【0008】

【作用】 以上の構成によれば、ダイヤリング操作を示す所定キーの操作が忘れられている場合でも、前記数値入力手段から数値入力が行なわれた場合、数値入力手段からの入力桁数に応じて実行すべき動作を選択することができる。

【0009】

【実施例】 以下、図面に示す実施例に基づき、本発明を詳細に説明する。

【0010】 図1は本発明を採用した画像通信装置の制御系の構造を示している。図において符号1はマイクロプロセッサなどから成る制御部で、メモリ2のROM部

分に格納された後述の制御プログラムに従って装置全体の動作を制御する。符号3は画像信号の符号化/復号化などを制御する画像処理部、符号4は網制御装置およびモデムなどから構成され、回線Nに対して信号入出力を行うための通信制御部である。

【0011】画像入出力はスキャナ5およびプリンタ6によって行われる。スキャナ5はCCDラインセンサおよび原稿搬送系などから、またプリンタ6はレーザビームプリンタや感熱プリンタなどの記録機構から構成される。

【0012】ユーザインタフェースは表示部7および入力部8から成る操作パネル9によって行われる。

【0013】図2に操作パネル9の構造を示す。図2において符号7は表示部で、LCDパネルなどから成る。符号81~84は入力部8の入力キーを示し、テンキー81、スタートキー82、ダイヤルキー83、その他のファンクションキー84から構成される。このうち、テンキー81は電話番号およびコピー枚数の入力に用いられる。スタートキー82は発呼処理やコピー処理の開始を指示するために用いられる。

【0014】ダイヤルキー83は従来例の項で説明したものと同様の機能を有し、ダイヤルキー83の入力の後テンキー81から入力を行うと、その番号は相手局の電話番号として扱われる。ダイヤルキー83を押下せずにテンキー81を操作すると、この入力数値はスキャナ5で読み取った原稿画像をプリンタ6で出力するコピー動作の際のコピー枚数として扱われる。

【0015】本実施例では、前述のように生じやすい発呼時のダイヤルキー83の押し忘れに対処するために、ダイヤルキー83が押下されずにテンキー81の操作が開始された場合、その桁数を数え、それが所定桁以上の場合にそれまでに入力された数値をキャンセルし、音、光、可視表示などによって警告を行う。そのための制御手順を図3に示す。

【0016】図3のステップS1では入力部8からのキー入力を検出し、キー入力があるとステップS2でそのキーがダイヤルキー83か否かを判定する。ダイヤルキーが押下されている場合には、ステップS3~S6において従来と同様にテンキー81から入力される数値を相手局の番号として扱い、相手局に発呼し、通信（この場合は送信）を行う。

【0017】一方、ステップS2でダイヤルキー以外の入力が行われている場合にはステップS7でテンキー入力かどうかを判定する。テンキー以外のキー、例えばファンクションキー84などが押下されている場合には、ステップS17において対応する処理を行う。ステップS7でテンキーが操作されている場合には、ステップS8でカウンタCの値を1に初期化し、ステップS9~S12のループにおいてテンキー入力を取り込む。

【0018】ステップS9ではキー入力を待ち、ステッ

プS10では押下されたキーがテンキー、スタートキーのいずれであるかを判定する。これ以外のキーが操作されている場合（例えば中止処理などの場合）には、ステップS17に移行し、テンキーの場合にはステップS11へ、スタートキーの場合にはステップS15に移行する。

【0019】ステップS11ではカウンタCの値をインクリメントし、ステップS12ではカウンタCの値、すなわちテンキー81によって入力された桁数が3以上かどうかを判定する。ここでは、3桁以上のコピー枚数の入力を許可しないためにこの判定を行っている。基準値の3桁は、別の値でもよい。ステップS12が否定された場合にはステップS9に戻り、テンキーの入力を繰り返し行う。

【0020】2桁以下のテンキー入力が行われ、その後スタートキーが押下されると、ステップS15においてテンキーによって入力された枚数だけスキャナ5によって原稿を読み取り、プリンタ6で記録するコピー動作を行う。複数枚の原稿が装填されている場合には、それぞれのページを指定された枚数だけコピーする。

【0021】一方、ステップS12が肯定された場合には3桁以上のコピー枚数が指定されていることになるので、ステップS13において警告音を発生する。この警告音の発生は、不図示のスピーカおよび発信器などを用いて行う。操作パネル9に警告用のLEDなどが設けられている場合には、それを点滅させることなどによって警告を行ってもよい。ステップS14では、表示部7に文字による警告表示を行う。この表示メッセージは「コピーは99枚まで。送信の場合はダイヤルキーを押して下さい」などのものが考えられる。

【0022】以上の構成によれば、3桁以上のコピー枚数の入力を誤入力として警告を行い、それ以上の枚数のコピー処理をキャンセルする構成としているため、意図しないコピー動作で用紙を無駄に消費するのを防止できるという優れた効果がある。また、メッセージを表示するなどの警告処理によって、ユーザに正しい操作を促すこともできる。以上の処理はダイヤルキー83の存在を知らずに、あるいはただ押し忘れることによって相手局のダイヤリングを開始してしまった場合に有効に作用する。

【0023】以上の実施例では、所定桁数以上のコピー枚数入力が行われた場合に警告を行う構成としたが、所定桁数以上のコピー枚数入力が行われた場合、ダイヤルキー83の押し忘れと判断してその数値入力を通信を希望する相手局の電話番号として扱い、発呼を行うようにすることも考えられる。図4にこの場合の処理を示す。図4においてはステップS109~S111のループ処理が異なるのみで、その他のステップS1~S8およびステップS16~S17の処理は図3と全く同じである。

【0024】ステップS7においてダイヤルキーが押下されずにテンキー入力が行われるとステップS8でカウンタCが1にリセットされ、ステップS109でキー押下が検出される。スタートキー押下の場合にはステップS112へ、テンキー押下の場合にはステップS111へ移行する。ステップS111ではテンキー入力の桁数をカウントするカウンタをインクリメントしてステップS109に戻り、次の入力を取り込む。

【0025】このようにして、カウンタで入力桁数を計数しながらテンキー入力を取り込み、スタートキーが押下されると、ステップS112でカウンタCの値が4以上かどうかを判定する。コピー枚数として4桁以上の数値が入力されることはあり得ないと考えられるので、この場合にはダイヤル操作の前にダイヤルキー83の操作が忘れられているものと判断してステップS4に移行し、入力された数値を電話番号として扱って発呼を行う。

【0026】なお、この場合、ステップS4では、6桁目以上の残りの電話番号を順次入力し、スタートキー82の押下などに応じて発呼処理を行なうものとする。

【0027】一方、カウンタCの値が3以下の場合にはその数値をコピー枚数の指定と判断してステップS15に移行し、その枚数のコピー処理を行う。

【0028】このような構成によれば、警告処理を受けることなくダイヤリングの場合のダイヤルキー押し忘れに適切に対処することができる。

【0029】図4の実施例では桁数が3桁の場合、例えば999枚までのコピーが実行されてしまう可能性があるが、これを避けるために図3の制御を取り入れてもよい。例えばステップS112が否定された場合、ステップS15に移行する前に図3と同様にカウンタCの値が3かどうかを判定する。そして3桁の入力の場合には警告を行ってそれ以上の処理を中止する。

【0030】また、ステップS112で4桁以上のテンキー入力が行われている場合には、その入力値を電話番号として扱う場合、ダイヤルキー83の押下が忘れられていること、あるいはコピー枚数を電話番号として扱うことなどを表示部7で警告表示する、あるいはこれとともに音や光による警告を発生するような処理を行ってもよい。

【0031】図3、図4の実施例ではカウンタCによってテンキーの入力桁数が3桁、あるいは4桁以上かどうかを判定しているが、この値は任意でよいのは言うまでもない。

もない。

【0032】

【発明の効果】以上から明らかなように、本発明によれば、ダイヤリング操作を示す所定キーを操作後、数値入力手段から相手局の選択番号に相当する数値を入力し、その相手局を発呼するとともに、前記数値入力手段が、相手局発呼以外の所定処理にも使用される画像通信装置において、ダイヤリング操作を示す所定キーの操作なしに前記数値入力手段から数値入力が行なわれた場合、数値入力手段からの入力桁数を計数し、その計数結果に応じて動作を選択する制御手段を設けた構成を採用しているので、ダイヤリング操作を示す所定キーの操作が忘れられている場合でも、前記数値入力手段から数値入力が行なわれた場合、数値入力手段からの入力桁数に応じて実行すべき動作を選択することができ、ユーザの意図しない動作が行なわれ、誤発呼や、記録紙の無駄な消費などを未然に防止できる優れた画像通信装置を提供できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明を採用したファクシミリ装置のブロック図である。

【図2】図1の装置の操作パネルを示した説明図である。

【図3】図1の装置における制御手順を示したフローチャート図である。

【図4】図1の装置における制御手順を示したフローチャート図である。

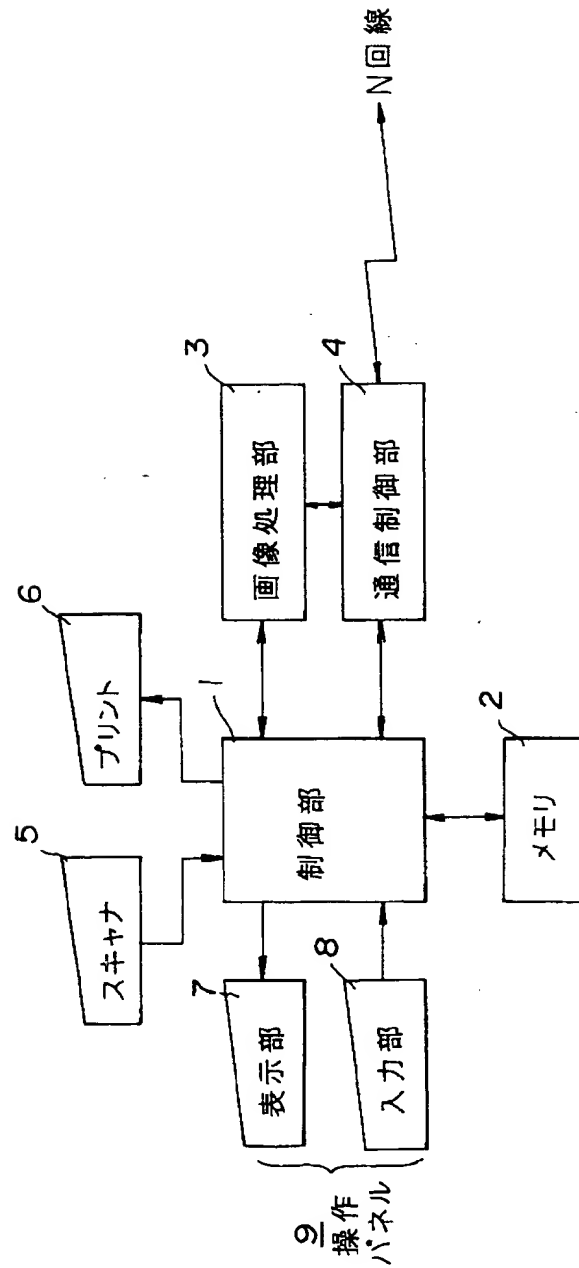
【図5】従来のファクシミリ装置の制御手順を示したフローチャート図である。

【符号の説明】

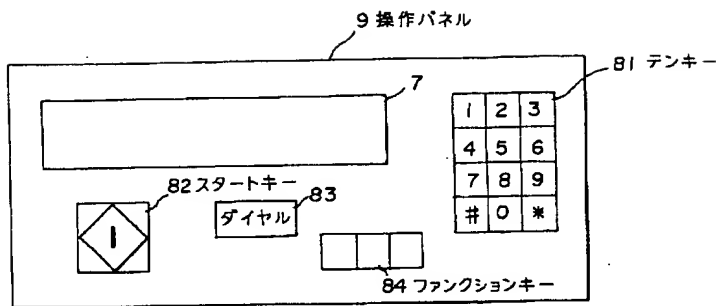
- 1 制御部
- 2 メモリ
- 3 画像処理部
- 4 通信制御部
- 5 スキャナ
- 6 プリンタ
- 7 表示部
- 8 入力部
- 9 操作パネル
- 81 テンキー
- 82 スタートキー
- 83 ダイヤルキー

【図1】

(図1)



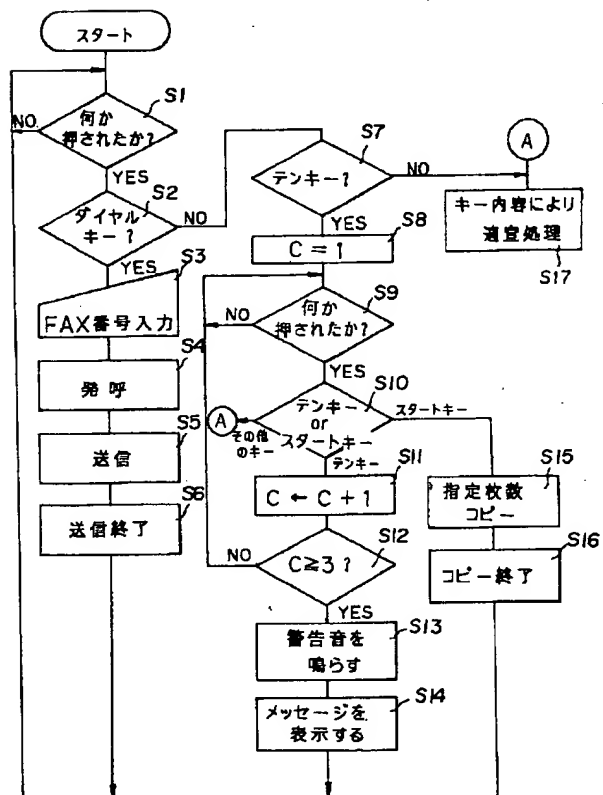
【図2】



(図2)

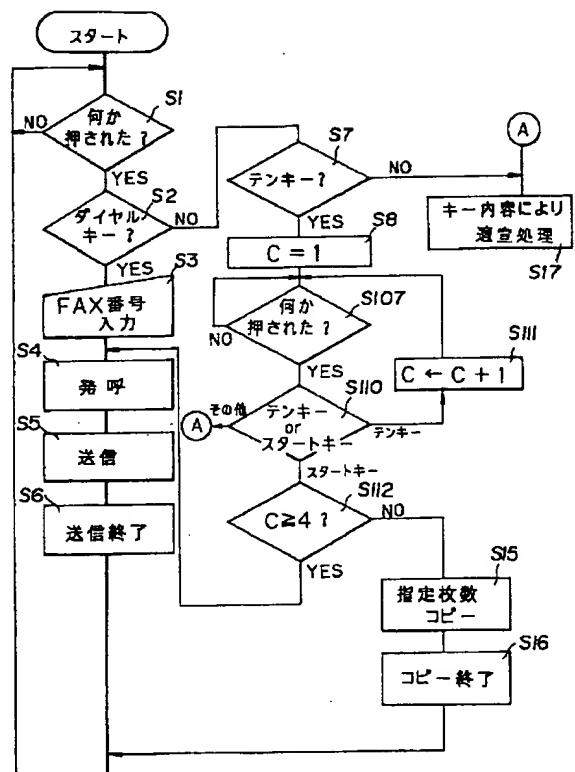
【図3】

(図3)



【図4】

(図4)



【図5】

(図 5)

